

# 高山

たかやま  
高山の原生林を守る会

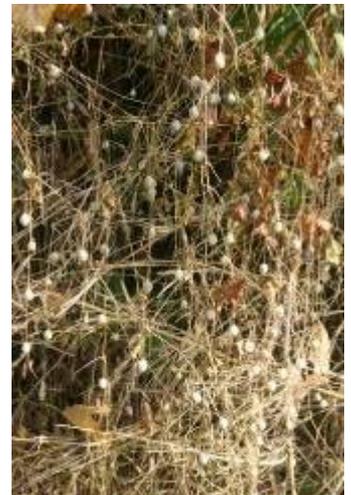
会報 第 75 号

2010年12月



## 第 113 回立子山・大館山自然林観察会

11月28日(日)に第113回観察会・大館山自然林観察会を実施しました。参加者は18名でした。総会会場の立子山自然の家の駐車場で準備運動をした後、出発です。阿武隈川に沿って開かれた歩道を散策しました。小規模ですが、河川沿いには溪畔林が発達し、サワシバなどシデの仲間(カバノキ科)を目にすることができます。この歩道の山側斜面には蔓植物が豊富で、特に真珠のような渋い輝きを伴った果実がすだれのように斜面一面を被ったスズメウリの群落は見事でした。発電施設手前から登山道に入り、大館山西側急斜面を登ります。一帯は、優占樹種であるコナラ・クヌギにカヤの木も混じります。加えて、カエデ科の樹木やアカシデやイヌシデ、ケヤキ、ホオノキ、タカノツメなどを見ることができ、溪畔林特有の林相を呈しています。また、玄武岩質火山角礫岩の大岩が露出しスリル十分の箇所もありました。登りきった先は送電線鉄塔でしたが、そこを過ぎると一転して、中世の城館跡のような様相を帯びた地形となります。空濠と思しきところで山内さんからこの遺構について説明を受けます。ここは、福島が上杉景勝の領地だった頃、直江兼続指揮下の上杉軍と伊達軍が対峙した館跡の可能性があるので。立子山自然の家に至る下り道ではリンドウやフユノハナワラビ、イヌシデの大木などを観察しました。放置された桑畑や発電所、中生の遺構など観察ポイントが豊富な里山コースでした。樹木ではカエデ類が豊富でメグスリノキ、ヤマモミジ、オオモミジ、イタヤカエデ、エンコウカエデ、コハウチワカエデ、ウリカエデなどが確認できました。



スズメウリ

## 的場川の源流を尋ねて

八巻愛子

9月26日(日)高山・的場川周辺自然林観察会を実施しました。参加者は、芋煮会に釣られて27名でした。私にとって観察会は2回目です。高山登山口にエゴノキが青い実を付けて歓迎、的場川に向けて歩いて行くとオヤリハグマ、オオカニコウモリ、ダイモンジソウ、アキノキリンソウ、ハクウンボクの葉が3枚～5枚、本年枝の茎部に2枚が対生のように向かい合って付いてた。冬芽も発見。振り子沢からの的場川までは、ブナ、ミズナラ、ウダイカンパ、ホウノキ、カエデ、イヌセンボンタケ、熊の爪痕が観察できました。的場川源流については、芋煮会の手際の良さには、ビックリしました。芋煮会は3種類の味付けが有りました。醤油、味噌、酒粕入りです。それぞれの味付けで美味しくいただきました。



累々と重なる岩塊はこの沢の氾濫が多いことの証。その傍らでの芋煮は野趣あふれるものでした。



帰りの足取りが重いのはお腹のせいかな

## 蝶と私

鎌田和子

写真①はコムスジという蝶です。滑空するような飛び方で、よく目の前に現れるのですが、なかなか止まってくれません。だから、この日も、どうせ私をからかいてきただけなのでしょうと、コムスジの写真を撮る気は全くありませんでした。ところが、珍しいことに、その蝶が私のポシェットに止まったのです。ポシェットからケータイを取り出したら逃げるに違いないと思いつつ、ケータイを引っ張り出しました。案の定、コムスジはポシェットから離れました。が、すぐに同じところに戻ろうとしています。それなら「この指にと～まれ！」と、左手を出すと、本当に止まりました。パシヤッ、パシヤッ、数枚撮っても逃げずに翅を開いたり閉じたり、歩いたりしています。三年前、ウラギンシジミと同じように戯れたことがあります。コムスジとこんな風に遊ぶなんて思いもしなかったことです。/私が、蝶を追いかけるようになって早くも三年になります。今年、珍しい蝶との出会いを求めるといより、身近に飛んでいるモンキチョウの産卵に遭遇したのをきっかけに、卵から幼虫へ、幼虫から蛹化(写真②)、羽化(写真③)の観察に挑戦しました。小さな卵から小さな幼虫が孵るのは当たり前なのですが、あまりに小さく、繊細そうな幼虫を飼うのは、神経を使い、疲れてしまいました。幸い羽化に成功し、二頭飛び立っていききました。



①コムスジ

夏には、サイクリングロードの土手から連れてきたジャコウアゲハの幼虫を、庭に移植したウマノズクサの葉上で観察しました。モンキチョウの幼虫と違って、ジャコウアゲハの幼虫はギャングのような感じ。黒くて大き

くて丈夫そうで、気が楽でした。すくすく育った、その終齢幼虫は、会員のK子さんからいただいたオオマツヨイグサの茎に蛹化し、羽化しました(写真④⑤⑥)。そこから飛び立っていった雌蝶が、その後、産卵に戻ってきたのか、庭のウマノズクサの葉の裏に卵が見られるようになりました。ウマノズクサの果実を見たいがために、2、3株移植したにすぎません。まさか卵が産みつけられるとは思っていませんでした。卵を数えて焦ってしまいました。全部孵ったら、ウマノズクサが足りなくなることは必至です。しかし、産みつけられた卵が、全部孵るのでもなく、また、孵化した幼虫が全部育つわけでもないようです。孵ったはずの幼虫が終齢になる前に、いつのまにか消えてしまうのです。蝶は一般に成虫になる確率が低いと聞いていましたが、なるほど本当なのだと納得できました。それから、「母蝶は、死ぬまで産卵し続けるのね!？」と、気づかされるような場面に出会いました。ジャコウアゲハの羽化から、ちょうど1か月後のこと。雌蝶がウマノズクサの葉に止まっているのを、偶然見つけました(写真⑦)。カシヤツという音に、雌蝶は逃げましたが、その姿の弱々しいこと。そして、草地に翅を開いたままペタツとしていました。何気なく、ウマノズクサの葉を返して見ると、卵が一個だけポツンと付いていました…。雌蝶は、ヨレヨレになって、生を終えるまで卵を産み続けるのでしょうか！子孫を残すことのみ生きてきた雌蝶の最後を、図らずも観察できたことに興奮し、この母蝶の子孫が、せめて一頭だけでも成虫となって飛び立つよう祈らずにはおれませんでした。



② どれが前蛹かな？



③ 下には抜け殻がついていませす



④ オオマツヨイグサに移動して前蛹スタイルに



⑤ 黄色の蛹に変身しました



⑥ 二週間後に羽化！ ホツとしました



⑦ 1か月後。同じ個体かどうか？

あんなに暑く長かった夏が嘘のように去り、キタテハが、カナムグラの上を乱舞する秋が訪れました。なぜか、今年の私の目は、カナムグラの葉を傘状にして潜むキタテハの《巣》を捉えたのです。昨年まで見えなかったものが、ラクラク見えることに驚きました。友人は、その愉しさを、「蝶の巣ウォッチングね!」と言ってくれました。大きい傘には若い小さな幼虫が隠れ住み、自分の隠れ家の葉を食べてしまって、小さくなった傘の陰には、まるまる太った終齢幼虫がCの字になっている、その姿には笑ってしまいました。そうして、「蝶の巣ウォッチング」は、ヨモギを食草とするヒメアカタテハの《巣》発見へと広がりました。勿論、それぞれの卵も蛹も、観察できました。

青空を、穂先で突くように真っすぐ伸びたセイタカアワダチソウの花が咲き出しました。その黄金色の花は蝶や蜂たちにたっぷり蜜をふるまうのでしょ。キタテハとキチョウが、蜜を吸っています。今、ふと、来年は、手に止まったあのコミスジの子孫探しをしてみようか、クズの葉に特徴的な食痕があるらしいから…。そんな思いが頭をよぎり、なんだか幸せな気分になりました。(2010.10.14)

## 鹿狼山から 15 ～鹿狼山のモミとカヤ～

小幡 仁子

昨年から、11月と12月は「阿武隈強化月間」と自分で勝手に名付けて、阿武隈の山々に友人を呼んで陽だまりハイクをしている。あちこちの名のある山々の紅葉が終わり、雪の便りが聞かれる11月過ぎに、阿武隈山地の紅葉は見頃となる。そして、「阿武隈の山には芋煮がよく似合うから」と、これも自分で勝手に決めて、お昼には芋煮汁を作ってお腹いっぱい食べることにしている。フーフー言いながら食べる芋煮汁の美味しいこと！ああ、幸せって感じ。

それで、今年は手始めに、大熊町の日隠山(601.5m)を登ることにした。高山の自然を守る会の山好きの方々に声をかけ、11月13日に6名で坂下ダム登山口から入った。駐車場も広く、水洗トイレもあり鹿狼山と同じくらい整備されていた。案内板などもずいぶんお金をかけているようで、カラー絵入りであった。この登山道は旧会津街道で「塩の径、鉄の径」として明治時代まで使われていたという。そんなせいも、里山としては自然度が高く、ヤシヤブシやモミやブナの大木が見事だった。特にモミは樹高20m～30mあろうかと思われるものが林立しており、阿武隈山地にこのようなところが残っていたのだと感心した。と同時に、実家の父が鹿狼山にも昔はモミの大木が沢山あったと話していたことを思い出した。50年くらい前には鹿狼山にもこんな風景があったのかもしれない。そのモミの大木を切り出して売り払い、そのお金で最近まで杉の共有林の税金を払っていたという。今ではその共有林は手入れもされず、放置されたままである。

さて、薄暗い林床にはカヤもあって、「モミとカヤ」は似ているがどこがどのように違うのかという観察会モードになった。モミの葉先は二つに分かれているが、カヤは葉先が分かれずに鋭く尖っていて、触ると痛いんですよ、とS氏は説明をしていた。ところが、モミと思われるのに、葉先が二つに分かれずに丸い物もあったので、「モミなのか？カヤなのか？」としばらく談義は続いた。モミは大きいものは木肌の特徴からすぐに分かるが、林床にあるモミやカヤの幼木は、同じものに見えた。しかし、よくよく観察してみると、カヤの葉は比較的同じ長さで並んでいるのに対して、モミの葉は長さが不揃いであるし、樹皮の質や色も違っていることが分かったので、目が慣れてくると同定は簡単であった。その後はゲームをするように、モミとカヤの同定をしてみたが、モミの木が林立する割にはその幼木は少ないように思えた。帰宅後、S氏からのメールで、モミも老木になると先の丸まった葉を付けることがわかった。(人間が歳をとると、性格が丸くなるのと同じです。という注釈付きだった)

日隠山のことから、鹿狼山でカヤだと思って見てきた物の中にモミがあったのではないかと気になり、登山道から見える範囲を確かめながら登ったが、みんなカヤかイヌガヤであった。頂上近くに1本の大きなモミがあり、冬は小鳥たちの休み場にもなっている。今は藪が薄くなっているので、落ち葉を踏み分けながら近づいてみた。モミの木の下の幼木は当然モミだと思ったらイヌガヤの木であった。周辺を探すと、本当に小さなモミの幼木が1本、落ち葉にうずくまるようにしてあった。この幼木はこれから先、成長できるのだろうか。鹿狼山にモミの木の林ができるのはずっと先のことと思われた。(2010/12/17)



日隠山にて  
左はカヤの葉 右がモミの葉



日隠山のモミ原生林  
鹿狼山にも昔はこのような風景が・・・



日隠山のモミ原生林  
鹿狼山にも昔はこのような風景が・・・

西吾妻山城の登山道保全ボランティアは 2000 年に西大巔から樹林帯の区間で行ったのが始まりでした。その後、作業領域は天狗岩まで拡大し、昨年は NF 米沢との共同作業として取り組んでいます。開始当初から「環境庁、地元市町村そして Gondra を運行する グランデコ、天元台両スキー場関係者による組織的な体制が必要である」(2000 年会報 34 号)との認識でおりました。10 年が経過した今年は、当初の方針を具体化するための活動にも取り組みました。



## 1. 登山道誘導ロープ設置ボランティア

6/20(日)に実施しました。参加者は守る会 11 名、NF 米沢 5 名でした。作業は天狗岩～西吾妻小屋、西吾妻小屋～樹林帯、樹林帯～西大巔の 3 班に分かれて行いました。NF 米沢の方とも、顔見知りとなり、作業内容もすっかり把握されているので、極めてスムーズな作業となりました。なお、10/17(日)に NF 米沢と共同で取り下げ作業を行っております。



## 2. 西大巔－西吾妻小屋間登山道周辺植生崩壊調査

9/5(日)に 5 名の参加で実施しました。調査は、西大巔山頂から西吾妻小屋まで 3 ブロックに区分し、登山道沿いの植生崩壊状況により分画し、距離と幅を測定しました。植生崩壊状況によりランク区分し、崩壊マップを作成しました。概要は以下の通りですが、このマップに基づき福島県自然保護課と協議をしております。

### A ブロック: 西大巔山頂～水場(植生崩壊領域面積 1795 m<sup>2</sup>)

山頂部はほぼ直径 17.4m の円状に植生が完全に崩壊し、ランク 4 となつ

崩壊ランク	植生崩壊状況
1	部分的植生崩壊あり、植生崩壊した部分は泥炭層は残存
2	部分的植生崩壊あり、植生崩壊した部分は泥炭層も崩壊
3	ほぼ全面的に植生崩壊、泥炭層は残存
4	植生も泥炭層も崩壊し露が露出
5	登山道の穿掘1: 藤付近まで
6	登山道の穿掘2: 藤から護まで
7	登山道の穿掘3: 護から上

部分的 30%以内 全面的 80%以上(30～80%の間はダッシュ付記)

ており、三角点付近は母岩が露出している。山頂から水場までの 460m の区間は深刻な植生崩壊と登山道の穿掘が認められる。植生崩壊の最大幅は 7.4m に達している。また、斜面崩壊しガレ場化しているか所も認められる。登山道周辺の植生崩壊は原則、山側に特化している。

### B ブロック: 水場～樹林帯

誘導ロープ設置を継続的に 11 年間実施した区間。設置部周辺の植生回復が部分的に認められる。特に水場入口付近で顕著。また植生回復ネットの効果も限定的であるが認められる。

### C ブロック: 樹林帯～西吾妻小屋間湿地帯(植生崩壊領域面積 西大巔側湿原 801 m<sup>2</sup>、小屋側湿原木道未設置部 415 m<sup>2</sup>)

2か所ある湿原のうち西大巔側の湿原は最も植生崩壊が深刻。西吾妻小屋側の湿原は途中まで木道設置。未設置部分で植生崩壊進行。また、西大巔側の湿原入口部分は山側で斜面崩壊が顕著である。



西大巔 - 西吾妻小屋間の登山道植生崩壊マップ

## 3. 裏磐梯自然保護官事務所・会津森林管理署、福島県自然保護課との協議

裏磐梯自然保護官事務所(6/10、8/22、11/4)、会津森林管理署(6/10)、福島県自然保護課(10/28)を訪問し、申し入れを行いました。内容は西吾妻登山道問題が中心ですが、山形県で組織されている「吾妻山周辺森林生態系保護地域の保全管理に関する検討会」の福島県側での立ち上げについても話し合いをしてみました。国立公園計画(昭和 60.1.31 告示)では、西大巔から西吾妻山頂の区間および若女平コースの管理者(事業執行者)が空白のままであることが問題となっております。なお、2010 年 4 月より「日光・吾妻山地緑の回廊」が設定されましたので「検討会」につきましては福島森林管理署にも説明していきたいと考えております。

## 東北ブナ紀行 (39)

奥田 博

山形県の低い山には、ブナのいい山が多くある。瀬見温泉近くの亀割山と東根市近くの雨呼山は、低い山ではあるが、ユニークなブナ林であった。

### 78) 亀割山

鎌倉時代のはじめ、兄頼朝から追われた源義経は、武蔵坊弁慶などのわずかな家来を従えて、北陸路を北に進み、鶴岡から清川に出て、舟で最上川をさかのぼり、ここから亀割峠を越して小国郷に入り堺田を経て陸奥国（岩手県）平泉に逃れたという。亀割山の山道にさしかかると、同行の北の方が急にお産をされて苦しまれた。弁慶は急いで東の沢にくだって水をさがすうちに湯煙を見つけて掘り出したのが、瀬見の湯であると言われる。義経の子は亀割山にちなんで亀若丸と名付けられた。そんな昔話に思いをはせての秋の山旅だった。西側の新庄登山口からすぐに杉の急坂ではじまる。その先は、同じような勾配で続く。杉林を抜けると明るい雑木林となる。雑木は紅葉も始まっており明るく輝いて気持ちがいい。そんな対照的な林を楽しんで、そのまま頂上尾根まで続く。山頂から少し下ると、見事なブナが現れ出した。百年以上生きたブナがいくつもあらわれて嬉しくなる。しかしそこだけがブナ原生林であったのだ。御前が出産した場所には神社がまつられていたが、杉に囲まれてそのまま杉林は瀬見温泉まで続いた。さっき忽然と現れたブナ林は、不思議なゾーンだった。

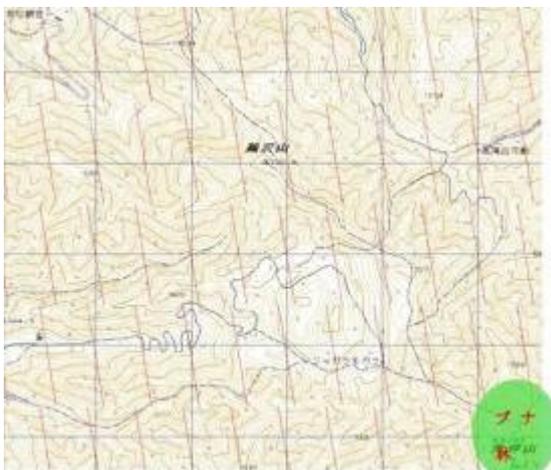
コースタイム：登山口（1時間10分）山頂（15分）ブナ林（1時間）瀬見温泉



亀割山のブナ

### 79) 雨呼山

「あまよばりやま」とは雨乞いの山である。山中にジャガラモガラと呼ばれる風穴があり、ここには竜神伝説が伝わり雨乞い祈祷も行われていたという。頂上付近には「竜神の池」があり、その途中には「村雲の池」があり、古くから竜神は雨を呼ぶ神として知られる。竜神の池に棲む竜神さまを怒らせて雨を降らせるのだという。民謡「わかまつさまよ〜」で有名な若松観音から取り付く。尾根に出て道標が現れる



雨呼山山頂付近のブナ

が、熊に壊されている。この先の道標は

全て破壊されていた。気持ちのいいものではない。鶴沢山を經由して雨呼山に向かうのだが、アップダウンの多い尾根歩きで、道も隠れがち。道の怪しい尾根を越えて、ジャガラモガラからの道を合せる。山頂が近付くと、幹の細いブナ林が広がる。二次林のブナ林は紅葉が始まり、粒が揃っているのも、陰影にリズムを感じさせる。山頂は北と南に二つのコブのようにあって、どちらも好ましいブナに覆われていた。50年後は楽しみな森だ。

コースタイム：若松観音登山口（1時間40分）鶴沢山（1時間30分）雨呼山（45分）ジャガラモガラ登山口

# 吾妻・安達太良花紀行 45

佐藤 守

## ミヤマキンバイ (*Potentilla matsumurae* バラ科キジムシロ属)

亜高山帯から高山帯の岩場や湿った礫地を中心に植生する多年草。同属のイワキンバイも山岳の岩場に植生するので紛らわしいが、吾妻・安達太良連峰に特定すると、植生が確認されているのは、ミヤマキンバイは吾妻連峰のみ、イワキンバイは安達太良連峰のみでいずれも植生地は限定的で、貴重種である。ミヤマキンバイはアジア要素の高山植物であり、植生適正はイワキンバイの方が低山性である。

葉は、根生葉と茎葉に分かれる。根生葉は葉柄が長く先端に3小葉性の複葉を着生する。茎葉は互生で3小葉性である。葉柄と茎ともに有毛。3小葉は粗い単鋸歯をもち、葉脈上に伏毛がある。イワキンバイは根生葉に1対の小葉が着き、3小葉の鋸歯は鋭く、葉裏は白い点でミヤマキンバイと異なる。

茎の先端部の茎葉の脇から花柄を伸ばしその先端に1輪の花を咲かせる。花は、それぞれ5片のがく片、副がく片、花弁で構成される。がく片の先端は尖り、副がく片の先端は丸い。花弁は丸い倒卵形で中央部が窪む。また花弁の色は鮮やかな黄色地に基部から中間部にかけてオレンジ色の絞り模様が入り、美しい。20個の雄しべが中央部の多くの心皮からなる雌しべを囲む。花は雌雄異熟性で先に雌しべが成熟し、雄しべは後から成熟する。ヤナギランやウメバチソウなども雌雄異熟性であるが、こちらは雄しべの方が先に成熟する。イワキンバイはオレンジ色の紋様がなく、花は集散花序を形成し、ミヤマキンバイより花が多く、傾斜地では花序が下垂して咲く。また、ミヤマキンバイは複数の株が根茎で連なるが、イワキンバイの株は独立している。

ミヤマキンバイは吾妻連峰より北方の飯豊山、南方の磐梯山には大群落が形成されているのに対してその間にある吾妻連峰では、植生規模は極めて小さいことは興味深い。吾妻連峰でミヤマキンバイに遭遇したのは最近のこと。それまでは、存在しないと思いついて、吾妻連峰の植生の奥深さを改めて実感している。



## ミヤマヤナギ (*Salix reinii* ヤナギ科ヤナギ属)

別名ミネヤナギ。森林限界移行帯の構成樹であり、ヤナギ類では最も高山に分布する。湿地を好むヤナギ類が多い中で本種は乾いた砂礫地に多く植生する。吾妻・安達太良連峰では季節風にさらされる山頂効果の顕著で岩の多い尾根や崩壊地などで群落を形成している。霜蝕作用の激しい一切経の構造土(氷河ができる程の厳しい気候条件でのみ形成するとされている)でも侵入が認められていて、極めて生命力の強い樹木である。

葉は互生で長さ5、6cm、幅2、3cmの倒卵形から楕円形で先端部が幅広い。葉縁は内曲し鋸歯を持つ。葉裏は粉白色である。

雌雄異株で花の長さは2~6cmぐらいになり、花弁にあたる花被は退化している。雄花は2本のおしべと1個の腺体(蜜の入った器官)を単位として密生し、穂を形成する。おしべの葯は始め黄色味を帯びたオレンジ色であるが、葯が開くと黄色になる。雌花は1個の雌しべと1個の腺体を単位として穂を形成する。開花期は5月上旬で他の植物に先んじて咲く。開花と葉の展開は同時期である。虫媒花であるが、この時期に活動する昆虫は極めて少ない。果実はさく果で種子がはじけて綿毛に覆われる。風の強いところでは匍匐して群落を形成する。

高山の山頂では群落が形成されつつあり、開花期には雄株と雌株による個性的な美の競演が観察できる。この山頂は本来オオシラビソとシラビソに被われた樹林帯であった。今から30年以上前に反射板設置に伴う伐採による生態系の攪乱が起こった。遷移の時間軸は、オオシラビソ林が形成される以前の母岩がむき出しの状態に遡った。山頂効果による厳しい環境にさらされる中で、ようやくミネヤナギの種が根づいた。これは、草地帯を経て森林再生への遷移が始まったことの証でもあるが、反射板の機能維持のために人為的な管理が入るのだろう。



## 第114回自然観察会案内：鬼面山東山麓ブナ林観察会

日時：2011年1月30日（日）7:30～15:00

集合場所 四季の里交差点正面入口駐車場 集合時間 7:30 参加定員 20名

内容 鬼面山から箕輪山に至る東斜面下に広がる冬のブナ林を散策します。

準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋（軍手複数）、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳、冬季歩行用具（スノーシュー、カンジキ、スキー）

\*装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用：保険代（300円）

申し込み：1月29日（土）まで佐藤守（024-593-0188）へ電話またはメールにてお願いします（電話申込は午後7時～9時でお願いします）。

## 2011年「高山の原生林を守る会」自然観察会計画

回数	月日	曜日	候補地	テーマ	担当
第114回	1/30	（日）	鬼面山東山麓ブナ林	雪上観察	佐藤守
第115回	4/3	（日）	鹿狼山自然林	スプリングエフェメラル観察	小幡
第116回	5/15	（日）	斜平山自然林	新緑観察	奥田
第117回	7/10	（日）	吾妻開パ～仙水沼自然林	夏の山岳植物観察	鈴木
第118回	10/2	（日）	龍ヶ岳自然林と鳩峰峠の植林地	紅葉観察と芋煮会	佐藤和
第119回	11/23	（水）	阿武隈峡遊歩道（蓬莱岩） （口太山自然林）	河辺林と野鳥観察 （予備）	山内
総会	11/23		福島市立子山自然の家		

## 2011年カタクリの会奥羽自然観察会計画

月日	回数	自然観察会のテーマ	観察地
1月16日（日）	241	冬の廻戸小屋	西和賀町廻戸
2月13日（日）	242	雪の自然観察	西和賀町志賀来
3月20日（日）	243	春を見つけよ	西和賀町川舟
4月24日（木）	244	カタクリの里歩き	西和賀町蛭山・七内
5月15日（日）	245	夏椿と夏の渡り鳥	西和賀町白木峠
6月19日（日）	246	新緑のブナの森	西和賀町貝沢・星めぐりの森
7月17日（日）	247	和賀川遊び	西和賀町和賀川
8月21日（日）	248	ブナの森の滝巡り	西和賀町下前風景林
9月18日（日）	249	秋のブナの森	西和賀町真昼ブナ指標林
10月23日（日）	250	植樹と苗作り	西和賀町貝沢・星めぐりの森
11月6日（日）	251	冬鳥と巨木巡り	西和賀町
12月4日（日）	252	初冬の森	西和賀町

- カタクリの会は西和賀町で、自然観察会開催を目的とした会です。
- 誰でも自由に参加できますが、各観察会の一ヶ月前から電話でのみ受付です。
- カタクリ通信を偶数月に発行いたしており、希望者には年間千円で送付致します。（郵便振込みをご利用ください…02350-5-38765 加人者名…カタクリの会）
- 連絡先：〒029-5512 和賀郡西和賀町川尻 41-72-15 電話 & FAX 0197(82)3601 代表：瀬川強

**新年度の会費納入をお願いします：郵便振替02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ**  
**2010年は100名を超える会員の方々から会費を納入していただき、来年も現在の年会費で事業を継続できることになりました。ありがとうございました。次年度もワンコイン（500円）協力について宜しくお願いします。**

**【編集後記】**今年最後の会報をお届けします。雪見桜に始まり、猛暑、短い秋、そして野生動物の出没と自然の話題が多い年でした。ブナ林では実が凶作の一方で、ブナアオシャホコが大発生しました。高山の原生林を守る会は、来年で25年目を迎えます。「森を知ることから始める自然保護」の輪を少しずつ広げていけたら楽しいですね。そのため来年も心地よい観察会と、心地よい出会いを期待したいですね。良いお年をお迎えください。

「高山」高山の原生林を守る会会報 第75号 2010年12月発行  
 編集・発行：高山の原生林を守る会 HP：<http://www15.plala.or.jp/adumatakayama/index.htm>  
 代表連絡先：佐藤守 Phone 024-593-0188（夜間7時～9時）  
 郵便振替：02170-0-24351 「高山の原生林を守る会」  
 入会方法：年会費（500円）を添えて上記まで  
 編集：佐藤・奥田・鈴木